

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立 龔 学校 】

1 実践テーマ	【Ⅲ V 】
2 実施対象者	本校高等部 卓球部12名、陸上競技部14名 本校中学部 卓球部及び陸上部10名 分校幼稚部4名、小学部7名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（中学部：体育 高等部：体育 ） ② 行事名（分校幼稚部、小学部：交流及び共同学習 ） ③ その他（本校中学部、高等部：部活動 ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・交流を通して、人権意識の向上を高め、あらゆる障壁に挑戦する力、意欲を身につける。 ・障害のあるなしにかかわらず、自分のできることに自信を持ち、他者とつながる気持ちを育む。 ・大きな集団で活動し、個人の目標を達成する喜びを知る。
5 取組内容	(1) 中学部、高等部の取組 ① 事前学習（北嵯峨高等学校生徒対象） ア 今回の活動の目的と活動内容について イ 京都府立龔学校について (ア) 聴覚障害について (イ) 手話について (ウ) コミュニケーション方法について (エ) 困った時の対応などについて ② 事前学習（本校中学部、高等部生徒対象） ア 今回の活動の目的と活動内容について イ 交流に向けての姿勢について ③ 交流当日 ア 北嵯峨高等学校女子ソフトボール部と高等部陸上競技部 (ア) 合同練習 (イ) 試合（混合チーム） イ 北嵯峨高等学校卓球部と高等部卓球部 (ア) 合同練習 (イ) 試合 ウ 北嵯峨高等学校陸上競技部と高等部陸上競技部 (ア) 合同練習 エ 北嵯峨高等学校卓球部と中学部 (ア) 中学部校外マラソン大会に向けた取組



	<p>④ 事後学習 取組後に感想等の交換等</p> <p>(2) 分校幼稚部、小学部の取組</p> <p>① 事前学習（西舞鶴高等学校女子バレーボール部員に対して）</p> <p>ア 今回の活動の目的と活動内容について</p> <p>イ 京都府立聾学校舞鶴分校について</p> <p>(ア) 聴覚障害児・者の聞こえ方について</p> <p>(イ) コミュニケーション方法について</p> <p>手話による挨拶と名前の練習</p> <p>(ウ) 関わりをもつ上での留意点</p> <p>② 事前学習（分校幼稚部、小学部の幼児児童に対して）</p> <p>ア 今回の活動の目的と活動内容について</p> <p>イ オリンピックやパラリンピックについて</p> <p>歴史や実施種目、日本人の成績など</p> <p>ウ 西舞鶴高等学校について</p> <p>③ 交流当日</p> <ul style="list-style-type: none"> 西舞鶴高等学校女子バレーボール部との交流 (ア) バレーボールのデモンストレーション <p>サーブ、トス、アタックなどの練習の様子の参観</p> (イ) バレーボールの技術指導 <p>ソフトバレー用ボールを使ったトスやレシーブの練習</p> (ウ) バレーボールによる交流 <p>小学部：ソフトバレー</p> <p>幼稚部：風船バレー</p> <p>④ 事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組後にそれぞれによる感想発表 後日、手紙による交流
<p>6 主な成果</p>	<p>1 高等部生徒</p> <p>回数を重ねる毎にコミュニケーションを取ろうとしていた。技術は勿論のこと、練習や試合に取り組む姿勢や態度を学ぶことができた。合同練習をすることで北嵯峨高等学校の生徒を目標にして、終了後も向上心をもって練習に取り組んでいた。大会で自己ベストを大幅に更新する生徒もいた。また、本校の生徒アンケートでも合同練習をして良かったなどの意見が多数で来年度も参加したいという回答がほとんどであった。</p> <p>2 中学部生徒</p> <p>高等部の生徒以外の交流に対して、一年生は、初めての取組のため、恥ずかしさや自信のなさが障壁となり、消極的であったが、実施回数を重ねるごとに積極的に活動し、北嵯峨高等学校の生徒との活動を楽しみに待つようになり、タイムも向上した。</p> <p>マラソン大会当日は、全員が目標タイム内で完走できた。</p> <p>3 舞鶴分校幼児児童</p> <p>スポーツによる交流は初めての取組だったので、高校生と楽しく交流するだけでなく、バレーボールのルールを理解やスポーツへの興味・関心を高める貴重な機会となった。</p> <p>高校生の練習の様子を間近に見ることで、その迫力やスポーツに</p>



	<p>取り組む真剣さを肌で感じる事ができた。事後も、休み時間にバレーボールに取り組む様子が見られた。</p> <p>〈本校交流〉</p>  <p>〈舞鶴分校交流〉</p> 
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> 聾学校の教員から北嵯峨高等学校の生徒に対して聴覚障害や手話についての説明を行った。短時間ではあったが理解をしてもらえた。 交流当日では生徒同士での交流の場を多く設けた。聾学校の生徒も筆談などのコミュニケーションを使って、交流を深めることができた。 <p>中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学部の練習開始後から北嵯峨高等学校の生徒と合流になるため、練習後に感想を発表したり、会話などの交流時間を確保した。 <p>舞鶴分校</p> <ul style="list-style-type: none"> 事後に手紙の交換に取り組んだ。当日の写真や高校生からの手紙を校内に掲示することで、保護者にも交流の内容や取組の大切さを知らせることができた。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年間又は複数年など、長期的に計画をして取り組みたい。 担当者で実施状況が変わる。 教育課程や移動時間などを考慮し、放課後等実施するが、活動時間が短くなる。 交流できる日程や時間帯が限られているので、計画的に実施したい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も継続して実施したい。 授業日以外に複数校で同一日に実施し、合同練習、対抗試合などを実施したい。 スポーツ以外の内容による交流も検討したい。